

# 金津祭 春日区の街人形山車



## 金津城主(四代)溝江長晴公

【車扇】  
一つ木瓜(香紋)  
一の扇

【陣幕紋】  
弦巻き蛇の目紋

戦国時代に金津城という溝江氏の城の中心、内郭が古町にあります。溝江氏は金津の地(溝江郷)を発祥とする一族で、大溝という長大な溜池と江という水路を作る土木技術者集団[継体天皇の末裔]であるとされています。(継体天皇即位1500年記念植樹の碑基盤がある)

現在、嫡流のはほかに庶流、分流は1500年の昔から貴重な歴史資料に登場し、今でも新発見史料が出て来ていますので、北は青森から南は北九州の各地に広く繁延されています。従来の町誌に記載されているのは初代、二代だけで朝倉氏や織田氏に仕えましたが一向一揆に敗れ去り、金津はすべて焼失、灰燼に帰しました。しかし、三代目の長民公は脱出し逃れて再起され、篠山重來を巢し、豊臣秀吉公の馬廻り衆(旗木のこと)となり、更に大名に昇格、二万石を領有し、現在のあわら市全域の太閤検地を奉行されました。また、秀吉公の御歳米(当時、福井市内東部に直領三千四百石を有した)を集め運上もしていました。

更に民生面では現在の金津の町割(道路・水路)の整備と、歴史上初めて、当時の主流であった軍事的に都合のよい舟橋(川底に舟を横に連ね板を渡しただけの橋で、有事にはすぐ取り外せる)を撤廃し、竹田川に唯一の木製の橋を架けました。町並みと同じ高さに設けられたこの金津橋(今の市姫橋のこと、秀吉公の御歳を頂いた上五奉行の長東正家の書状有り)は、南北に分かれた町民の日常生活に高い利便性をもたらし、自由活動の大名交流と町内皆和が実現したのです。長民公なきあと、四代長晴公は20歳ぐらいで父の遺領金津を離ぎ大名となりました。病弱であった父を助け、10代から金津の治世を行いました。まもなく、秀吉公が亡くなり關ヶ原の戦いがおこり、前田利長に恭順しましたが家康に認められず、以後、彦根城主の井伊直政に仕える。

金津城の外郭は古町を中心に、東は北ahoo越、六日、新町、西は新用、馬場、東善寺、谷昌の八町で南金津の全区域でした。城の館跡地は古い祠に代々の墓石と共に古町ふれあい会館前にまつられており、菩提寺の梅昌山妙隆寺によってまもられています。

毎月、十一日は十(じゆうのひ)の供養日、また、七(しち)の地の供養日として尊ばれ、月例行会を開いております。ご自由に参加下さるのをお待ちしております。  
継体天皇ゆかりの、岐阜県揖斐郡の若木が記念植樹されました。  
(古川山町氏が耕作した樹高50cmの幼木ですが、即ち1500年を記念しております。)



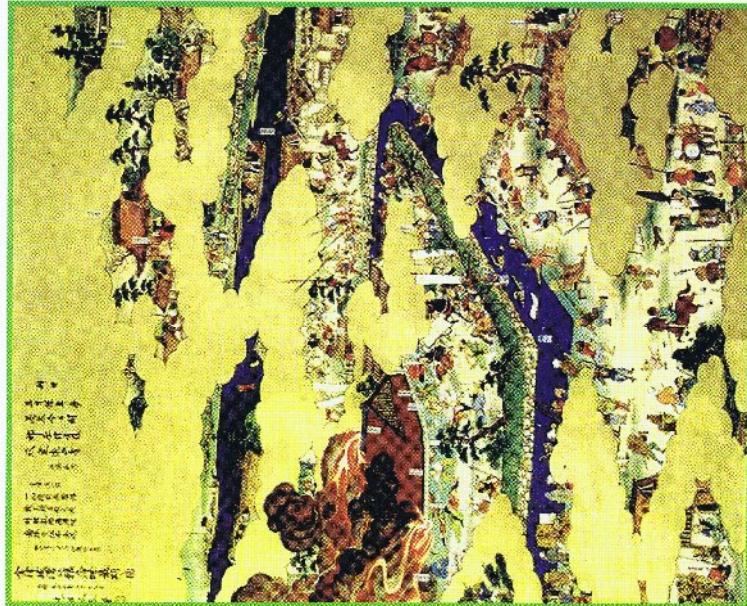
【金津開領主 溝江公菩提所  
南加賀守護 富権泰俊公菩提所  
妙隆寺 妙隆寺  
梅昌山 妙隆寺  
常宣 住職 見玉  
(通称は「古町の法華寺」といわれております)

安土桃山時代

東京都 溝江伸康家

福井県あわら市 山姫2丁目7-26  
電話番号 0776-73-1839

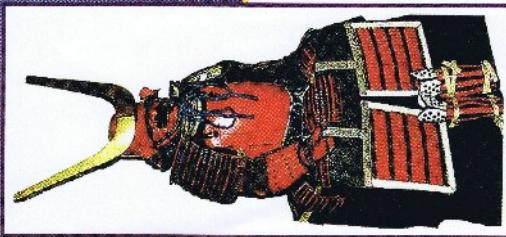
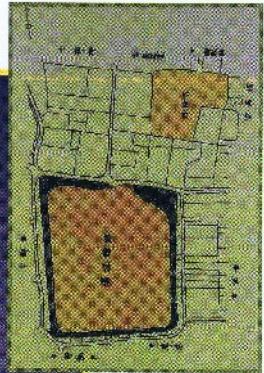
# 温故知新



画賀 一向徒兵萬國館 戦不利自放火亡時拵脱圍再興城 築孫今伝弔幽魂

## 溝江館跡の図

干時天正二年二月廿九日  
(所蔵)あわら中央図書館



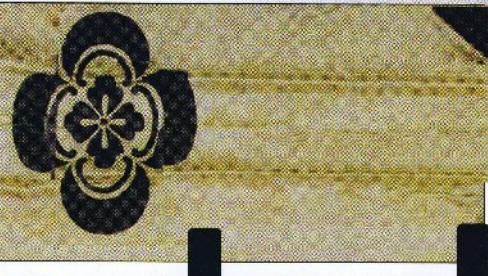
【幟旗・馬印】  
立浦二条流れ一つ木瓜(香紋)  
(所蔵)あわら市教育委員会



## 長晴公愛用の具足】

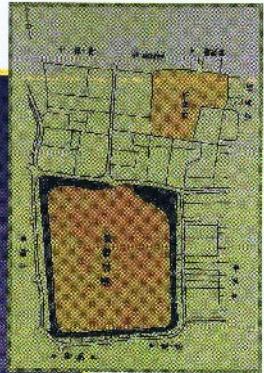
安土桃山時代  
東京都 溝江伸康家  
(所蔵)

戦国時代に金津城という溝江氏の城の中心、内郭が古町にあります。溝江氏は金津の地(溝江郷)を発祥とする一族で、大溝という長大な溜池と江という水路を作る土木技術者集団[継体天皇の末裔]であるとされています。(継体天皇即位1500年記念植樹の碑基盤がある)



## 溝江館跡古図

干時天正二年二月廿九日  
(所蔵)あわら中央図書館



【溝江館跡古図】  
(所蔵)あわら市姫妙隆寺